

長生きを喜べる長寿社会の実現

～生きがいのある高齢者を増やす～



公益財団法人長寿科学振興財団
The Japan Foundation for Aging and Health

長寿科学の振興を通じ、生きがいがあり、 長生きを喜べる長寿社会を実現してまいります。

理事長あいさつ



大島 伸一

理事長を務めることになり、皆様方に御挨拶を申し上げますとともに、あらためて、長寿科学振興財団に求められるもの、私の役割とは何かについて考えてみました。当財団が発足したのは平成元年で、ナショナルセンターである国立長寿医療センター(当時)の設立を想定して、それを支援するための財団として設立されたものと理解しています。

来るべき高齢社会に向け、どのような問題・課題が生じるのか、それに対しどのように対応してゆけばよいのか、国としてすでに準備を進めていたものであり、現在の日本、世界の状況を考えると、諸先輩方の慧眼に驚かされます。六番目のナショナルセンターとして国立長寿医療センターが設立されたのは平成16年で、常陸宮殿下妃殿下、厚生労働大臣、愛知県知事らをお迎えして開設記念式典が催されました。初代の総長として選任された私が、当財団と深く関係するようになったのはこの時からです。

国立長寿医療センターは、平成22年に独立行政法人となりましたが、今でも国立の名称が残っているように、国民のためにというセンターの使命は変わらず、政策医療への提言などを主要な使命としていることには変わりはありません。因みに、現在の正式の名称は、平成27年から国立研究開発法人国立長寿医療研究センターとなっています。ナショナルセンターの独立行政

法人化とともに、財団と国立長寿医療研究センターの関係は法的には変わりましたが、両者が協力して高齢問題に取り組むという使命や目的は変わっていないと考えています。

すさまじい勢いで高齢化の進んでいる我が国で、財団に求められていることは何か。認知症とかフレイルなど、老化とともに進展する人の肉体的、精神的変化をはじめ、高齢者が増えることにより生ずる社会の変化、生活の変化にどう対応してゆけばよいのか、人類が経験したことがなく、どこにも答えのないこれらの問いにどう財団は立ち向かえばよいのか。

東日本大震災や豪雨による水害等では、多くの高齢者が亡くなりました。高齢になれば虚弱化するといえればそれまでですが、自力で生活できないという意味では、高齢者よりも乳幼児の方がはっきりしています。乳幼児の場合は、親と共に生活していることもありますが、親が必死になって守ります。老々・独居が当たり前の居住形態では、高齢者を守るのはますます難しくなるでしょう。

また、新型コロナウイルス感染症の流行でも死者で圧倒的に多いのは高齢者です。諸外国ではICU等での救命機器の使用の優先度を決めなくてはならないなどといった事態まで生じているようですが、そのような時に高年齢という要因がどのように評価されるのか。高齢者にとって安全で住みやすい高齢社会とはどんな社会なんだろうかと考えざるを得ません。

私は「長生きを喜べる社会」という言葉が好きでこれまでも何度も使わせてもらっていますが、この言葉は、小泉元首相が二期目の所信表明演説で使用された言葉です。小泉首相は「長生きを喜べる社会」とはどんな社会なのか、その時もその後も詳しく触れることなく政権を終え、私には不満でしたが、実際にはその答えは当時も今も誰も解っていないというのが正解でしょう。

日本に生まれ育ち、そして老い死んでゆく、より多くの方が人生を終えるときに、いろいろあったが「長生きしてよかった」と言えるような社会とはどんな社会なのか。当財団がその答えの一端でも示すことに貢献できればと思っています。よろしくお願い申し上げます。

長寿科学

長寿科学は、長生きを喜べる長寿社会づくりの基盤となる学問です。

老化メカニズム(人はなぜ老いるのか)の解明、高齢者特有の疾病の原因解明と予防・診断・治療、さらに高齢者の社会的・心理的問題の研究等、高齢者や長寿社会に関し、自然科学から人文社会科学に至るまでの幅広い分野を総合的・学際的に研究する学問を「長寿科学」と呼びます。

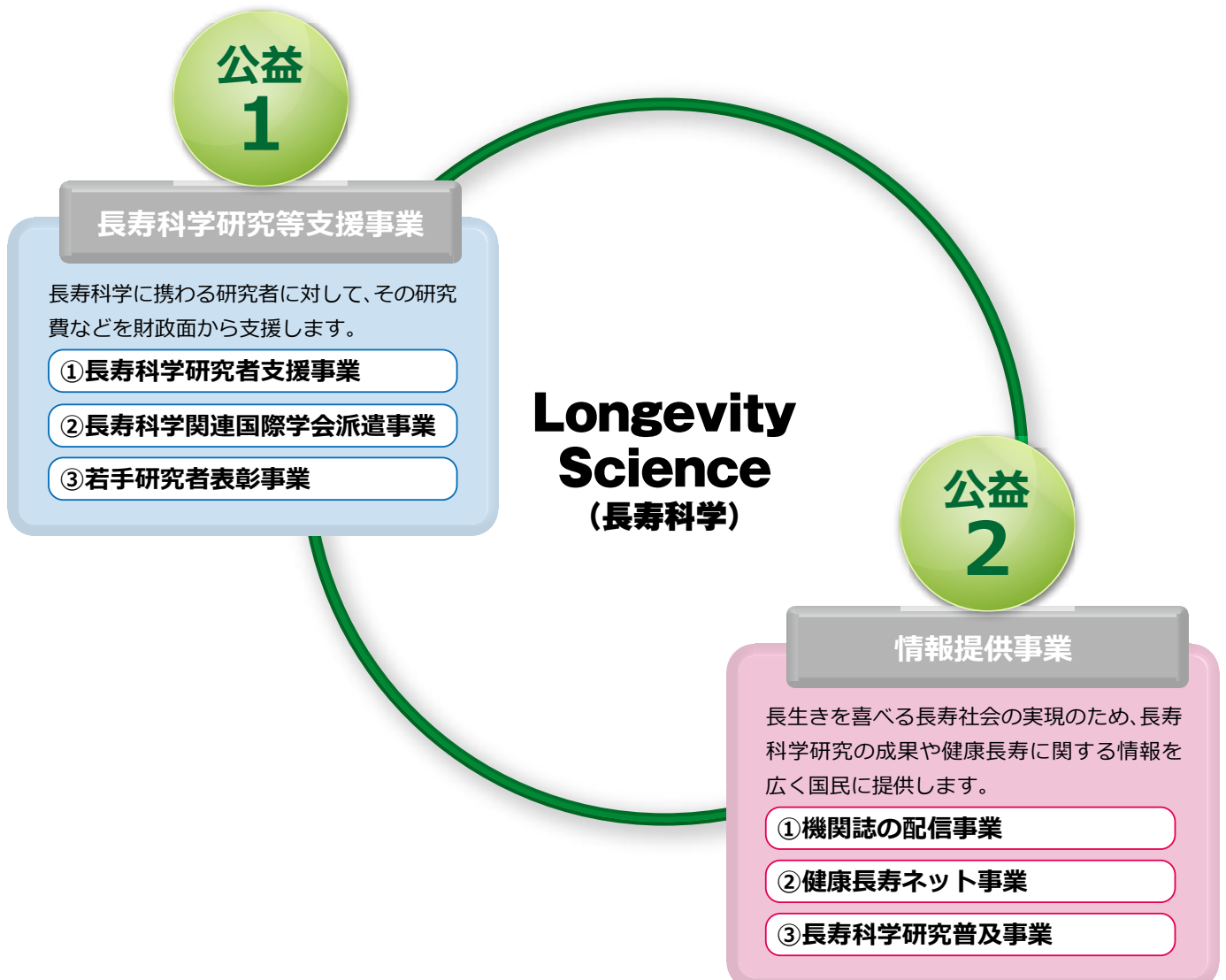
財団ビジョン

長生きを喜べる長寿社会の実現～生きがいのある高齢者を増やす～

当財団では、長生きを喜べる・生きがいのある人生とするための課題解決となる研究開発・社会実装を行い、政策提言に向けた事業を実施します。人生100年時代において、ひとりひとりが最期まで生きがいのある心豊かな人生を送ることができる社会の実現を目指します。

事業

財団ビジョン実現のため、長寿科学に関する2つの公益事業(研究の助長奨励・研究成果の普及)を展開しています。



①長寿科学研究者支援事業

●長生きを喜べる長寿社会実現研究支援

財団ビジョン「長生きを喜べる長寿社会の実現～生きがいのある高齢者を増やす～」を実現するため、これを主課題として掲げ、その実現のために課題解決となる基礎的な研究から本格的な社会実装まで取り組める課題解決型のプロジェクトを支援し、採択します。確実に社会実装し、持続可能な事業化を重視するとともに、社会貢献、地域貢献となるプロジェクトを支援します。



プロジェクト分類

多様な段階から開始するプロジェクトを支援するため、AからCの3つの分類を設けています。

A 探索研究

課題解決方法のアイデアの実現性・実用化が可能かどうか検証を目的とする

年間上限1,000万円
最長2年間

B 実装研究

課題解決方法を実験的に実装・検証を進め、事業化の準備を目的とする

年間上限1,000万円
最長2年間

C 社会実装

事業を本格的に進め、持続可能な仕組みの確立を目的とする

年間上限1,000万円
(助成率は総事業費の
3分の1まで)
最長2年間

それぞれの分類で求める最低限の成果

課題解決方法の
試作版の完成

課題解決方法の
正式版の完成
外部資金の調達の実現

持続可能な事業の
仕組みの確立

令和7年度助成プロジェクト

■エビデンスに基づく認知症予防プログラムの社会実装 ～高齢者のQOL向上と持続可能なコミュニティ支援の確立～

- プロジェクト代表者: 櫻井 孝(国立長寿医療研究センター研究所長)
- 採択分野: 実装研究(3年間) ●助成額: 9,000万円(予定)



エビデンスに基づいた実装版認知症予防プログラムを通じて、高齢者のQOL・認知機能を向上させる。プログラムが地域コミュニティに根付くための持続可能な運営体制を構築し、地域全体の健康と福祉を改善させるとともに、認知症の社会的コストの削減を目指しています。

■ユニバーサル・フレンドリー・ファシリティが認知症の人と地域住民の社会参加向上とスティグマ軽減、ウェルビーイング向上にもたらす効果検証

- プロジェクト代表者: 斎藤 民
(国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部 部長)
- 採択分野: 探索研究(2年間) ●助成総額: 19,737,580円



認知症の人や地域住民の社会参加の促進、スティグマの軽減、ウェルビーイング向上を目指す産官学民連携事業。認知症の人の外出行動や生活機能障害に関する調査、誰でも使いやすいトイレ、誰にでもわかりやすいサイン(案内表示)の開発などを通じ、30社以上の企業を含む多様な主体が参画している。令和7年3月には成果発表会を開催し、地域での共創の成果を広く発信した。さらに、愛知県大府市に令和8年度開館予定の健康交流施設に本プロジェクトの成果が活用される。認知症の人や家族を含む現場でのまち歩き調査やトイレ開発のワーキングも展開されており、地域社会との共創による「やさしいまちづくり」のモデル形成がされた。

■アドバンス・ケア・プランニング推進のための共通ICTプラットフォーム構築 一どこで療養していても本人意思が尊重される社会作り

- プロジェクト代表者: 三浦 久幸
(国立長寿医療研究センター 在宅医療・地域医療連携推進部 部長)
- 採択分野: 探索研究(2年間) ●助成総額: 2,000万円



高齢者の意思が尊重される社会の実現に向け、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)情報を医療・介護関係者間で共有できる共通ICTプラットフォームの構築を目指した。英国の事例を参考に、患者の価値観を反映したACP共通項目(データセット)を策定し、それを電子カルテに実装可能なテンプレートとして試作。さらに、情報を入力・活用する専門職「ACPファシリテーター」の育成研修を開発・実施し、行動変容を確認した。あわせて、国内外の制度・技術動向を調査し、医療DXに対応したシステム標準化の課題を整理。ACPの情報を継続的かつ信頼性をもって蓄積・共有する仕組みの初期モデル(ACPクラウド)を構築した。

■貢献寿命延伸への挑戦！ ～高齢者が活躍するスマートコミュニティの社会実装～

- プロジェクト代表者: 檜山 敦
(一橋大学ソーシャル・データサイエンス研究科 教授)
- 採択分野: 実装研究(3年間) ●助成総額: 9,000万円



「貢献寿命」の延伸を目指したプロジェクト。いくつになっても社会とつながり、誰かの役に立ち、感謝される「貢献寿命」は新たな寿命指標であり、ICTプラットフォーム「GBER」の開発・実装と併せて概念の普及、啓発をした。また政策提言として、国の「高齢社会対策大綱」にモザイク型のジョブマッチングを行う仕組みの構築が掲載され、地域社会の課題解決に取り組むための全国公募事業への反映も実現された。令和7年2月には東京大学にて成果報告会を開催し、WEB含め400名以上が参加。研究成果は社会実装と政策化に貢献した。

● 高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成

Googleの慈善事業部門であるGoogle.orgの支援を受け、高齢者のデジタルデイド解消、デジタル技術を用いて地域コミュニティの創出や高齢者ボランティアの育成・雇用創出に取り組む3つのプロジェクトを支援しました。

with support from
Google.org



② 長寿科学関連国際学会派遣事業

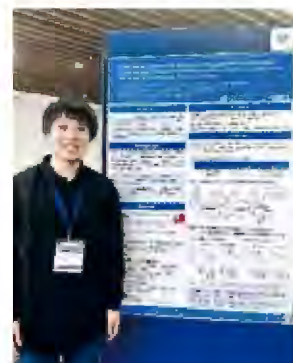
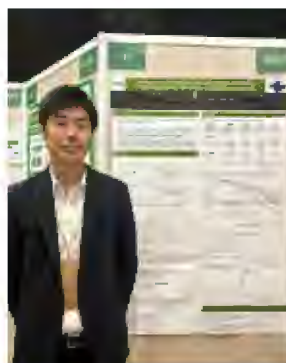
長寿科学研究に携わる若手研究者の育成を目的に、優れた研究成果をあげた若手研究者又は有望な研究を行う若手研究者に、海外で開催される関連する学会に参加するため(1人20万円10人程度)助成します。



令和6年度派遣学会(開催都市)

(学会開催順)

- 第68回社会医学と公衆衛生学の年次学術集会
(イギリス グラスゴー)
- 第3回植物と人の硫黄生物学国際会議
(フランス ポンタ=ムソン)
- 第27回国際障害者歯科学会議(韓国 ソウル)
- 国際研究大学連盟老化・長寿・健康(IARU-ALH)
年次会議2024年
(イギリス オックスフォード)
- 北米神経科学会議2024(アメリカ シカゴ)
- 第24回国際神経精神医学会学術大会
(オーストラリア メルボルン)
- 第10回国際身体活動学会学術総会(フランス パリ)
- アメリカ人類遺伝学会 総会2024(アメリカ デンバー)
- Gerontological Society of America
2024 Annual Scientific Meeting
(アメリカ シアトル)



③ 若手研究者表彰事業

長寿科学研究に携わる若手研究者の研究活動を幅広く支援することにより若手研究者の育成と長寿科学の振興を図ることを目的として、優れた研究成果をあげた研究者を選考のうえ、「長寿科学賞」を贈呈するとともに、副賞として研究費(100万円)を交付します。
日本老年学会を構成する7学会に依頼し、各学会から選考・推薦された若手研究者を表彰します。



研究助成・成果発表会／若手研究者表彰式

令和7年6月27日(金)、第34回日本老年学会総会(会場:幕張メッセ)において、日本老年学会との共催で「研究助成・成果発表会」および「若手研究者表彰式・受賞講演」を実施しました。

●研究助成・成果発表会 1

with support from Google.org

「高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成」

第1部では、Google.orgの支援を受けて助成を行った「高齢者のデジタルデバインド解消プロジェクト」に関する3つの研究成果を発表しました。



島田 裕之
(国立長寿医療研究センター)



瀧 靖之
(東北大学)



村山 洋史
(東京都健康長寿医療センター)



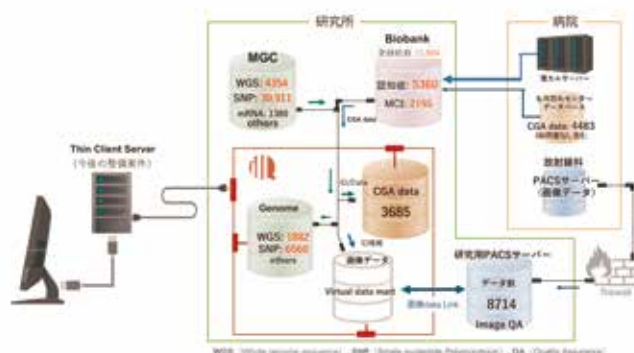
●研究助成・成果発表会 2

「認知症発症予防介入戦略拠点の構築のための研究」

第2部では、長寿科学研究者支援事業・指定課題研究(令和3～5年度)の成果として、「認知症におけるデータベース構築手法の研究」を発表しました。



新飯田 俊平
(国立長寿医療研究センター)



バイオバンクデータベースを基盤に認知症例のデータを統合したイメージ図

●若手研究者表彰式・受賞講演

第3部では、長寿科学研究において優れた成果を挙げた若手研究者に「長寿科学賞」を授与し、各受賞者による講演を行いました。

【令和7年度受賞者】

- 田中友規 (日本老年医学会・東京大学)
- 中川 威 (日本老年社会学会・大阪大学)
- 小林正樹 (日本基礎老化学会・お茶の水女子大学)
- 豆野智昭 (日本老年歯科医学会・大阪大学)
- 畑 亮輔 (日本ケアマネジメント学会・北星学園大学)
- 山口裕子 (日本老年看護学会・トヨタ自動車)
- 浜田将太 (日本老年薬学会・医療経済研究・社会保険福祉協会)



①機関誌の配信事業

WEB版機関誌「Aging&Health(エイジングアンドヘルス)」を財団ホームページと健康長寿ネットにて年に4回(春・夏・秋・冬)配信しています。令和7年度は113号～116号を公開予定。



機関誌の主な内容

●特集

長寿に関わる研究について専門家が分かりやすく解説

「テーマ」

113号:高齢者のデジタルデバйд解消プロジェクト

114号:貢献寿命の延伸

115号:認知症アクションプラン・施策推進基本計画

116号:新高齢者総合機能評価ガイドラインに基づく診療・ケア

●インタビュー

ご高齢になっても活躍されている著名人へのインタビュー

95歳古民家再生建築家の方を始め、96歳アマチュアカメラマンの方など毎号

いつまでもお元気で、いまでも現役の方の人生にスポットを当てて紹介

●理事長対談

各界のキーパーソンと大島理事長が人生100年時代を迎え、一人ひとりが生きがいを持って暮らし、長生きを喜べる社会の実現に向けてどのようなことが重要かを考える

●ルポ

地域の鼓動 各地域で高齢者に関わる取り組みを紹介

現場の人々の想いや工夫など地域で暮らす高齢者を支える温かな取り組みを紹介

●最新研究情報

国内外の新しい長寿科学に関する研究について専門家が分かりやすく端的に紹介

●エッセイ

様々な分野の専門家によるエッセイを連載(全4回)

「令和7年度」

鎌田 実 (東京大学名誉教授、一般財団法人日本自動車研究所所長)

佐藤 眞一(大阪大学名誉教授、社会福祉法人大阪府社会福祉事業団特別顧問)



②健康長寿ネット事業

厚生労働省の助成を受けて、高齢期を前向きに生活するために必要な情報を提供し、日本の健康長寿社会の発展に貢献する目的で作られたWEBサイトです。疾病、老化、介護予防や健康づくりなど、健康長寿に関する情報を提供しています。



 **健康長寿ネット** <https://www.tyojyu.or.jp/net>



WEBサイトの主なコンテンツ(内容)

- **健康長寿とは** 自分でできる健康長寿のための情報について
- **高齢者の病気** 高齢者に多い病気・症状について
- **高齢者を支える制度とサービス** 介護保険制度や利用できるサービスなどを紹介
- **インタビュー・対談・特集・研究情報** 機関誌で取り上げた記事を紹介
- **エッセイ** 機関誌で取り上げたエッセイに加え健康長寿ネットだけの連載エッセイを掲載



健康長寿ネット よく読まれている記事 (令和6年度実績)

- カリウムの働きと1日の摂取量
- ビタミンDの働きと1日の摂取量
- 亜鉛の働きと1日の摂取量
- 貧血予防に良い食事・食べ物・調理方法とは
- フレイルとは
- 水は1日どれくらい飲めば良いか

③長寿科学研究普及事業

国立研究開発法人国立長寿医療研究センターとの連携により、毎年テーマを定め、長寿科学研究に関する国際シンポジウムを開催します。また、当財団が支援した研究成果を機動的に広く国民に普及・啓発します。



長寿科学振興財団の設立

政府は、平成元年12月に「高齢者保健福祉推進十か年戦略(ゴールドプラン)」を打ち出しました。この十か年戦略において、かねてより昭和天皇御長寿御在位60年慶祝事業の一環として検討されていた「国立長寿医療研究センター」の設置及び「長寿科学振興財団」の設立推進の方針が決定され、同年、当財団が設立されました。

●高齢者保健福祉推進十か年戦略(抜粋)「6 長寿科学研究推進十か年事業」

- (1) 研究基盤充実のための国立長寿医療研究センターを設置するとともに、長寿科学研究を支援する財団を設立する。
- (2) 基礎分野から予防法・治療法の開発、看護・介護分野、更に社会科学分野までの総合的な長寿科学に関するプロジェクト研究を実施する。
- (3) これらにあわせて、将来の高齢化社会を担う児童が健やかに生まれ、育つための施策を推進することとし、とりわけ、生涯の健康の基礎となる母子保健医療対策の一層の充実について中長期的視野に立って検討する。

ロゴマークの由来



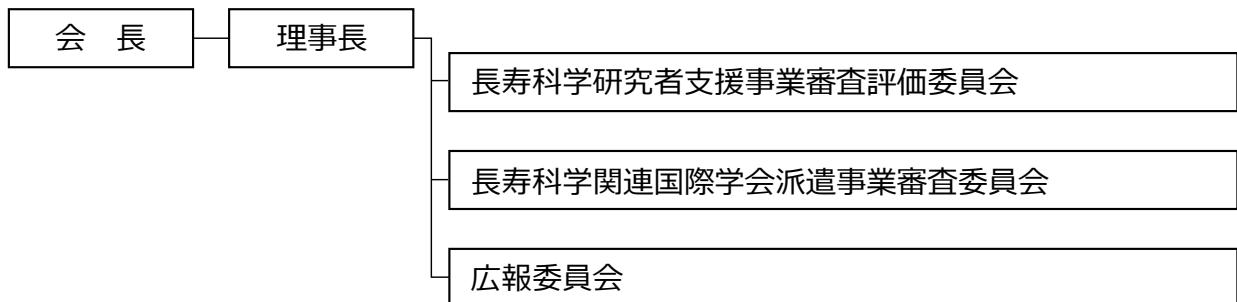
当財団は、昭和天皇御長寿御在位60年慶祝事業の一つとして設立されました。また、昭和天皇の一周年祭にあたり、天皇陛下、皇太后陛下から、長寿科学研究推進に資する思し召しにより昭和天皇の御遺産から当財団に対して御下賜金が賜与されました。こうした経緯から、昭和天皇の宮中での御印が「若竹」でありましたことに因み、いつまでもみずみずしく若々しい心を象徴するものとして平成9年に作成されました。

組 織

●組織図



●推進体制



基本財産造成状況

令和7年3月31日現在(単位:千円)

御下賜金	一般募金	愛知県	財界等
100,000	186,526	2,100,000	2,074,339
基本財産合計 4,460,865			

治 革

平成元年12月	・政府は、長寿科学研究推進事業として、センターの設立・支援財団の設置等を決定 ・財団法人長寿科学振興財団設立 - 初代会長 鈴木 永二 - 初代理事長 佐分利 輝彦 就任 ・政府は「高齢者保健福祉推進十か年戦略」(ゴールドプラン)を策定
平成2年1月	・昭和天皇1周年祭に当たり、天皇・皇太后両陛下より昭和天皇の御遺産から御下賜金の賜与
平成2年4月	・長寿科学研究センター創設準備室発足
平成6年12月	・政府は、現行の「高齢者保健福祉推進十か年戦略」を全面的に見直し「新ゴールドプラン」を策定して、高齢者の介護対策の更なる充実を図ることとした
平成7年6月	・二代会長 永野 健 就任
平成7年7月	・長寿医療研究センター運営開始
平成9年10月	・財団本部を、あいち健康の森健康科学総合センター内へ移転 ・旧本部は、東京事務所に組織変更
平成10年10月	・財団設立10周年記念式典挙行
平成11年12月	・政府は、高齢者保健福祉施策の一層の充実を図るため、「ゴールドプラン21」を新たに策定
平成12年1月	・二代理事長 大谷 藤郎 就任
平成12年3月	・国民的アイドルであった故成田きんさんの御遺族より、小淵総理大臣を通して御寄附を受納
平成13年4月	・三代会長 奥田 碩 就任 ・天皇陛下より、香淳皇后の御遺産から御下賜金の賜与 ・政府は、「メディカル・フロンティア戦略」をスタート
平成15年10月	・三代理事長 小林 秀資 就任
平成16年3月	・高度専門医療センター(ナショナルセンター)として、国立長寿医療センター開設
平成17年4月	・「健康メディカル・フロンティア戦略」がスタート
平成18年6月	・四代会長 柴田 昌治 就任
平成19年4月	・「新健康フロンティア戦略」がスタート
平成22年3月	・四代理事長 祖父江 逸郎 就任
平成22年6月	・五代会長 渡辺 捷昭 就任
平成23年3月	・東京事務所を本部へ統合
平成23年4月	・公益財団法人へ移行
平成27年1月	・「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～(新オレンジプラン)」策定
平成28年6月	・「ニッポン一億総活躍プラン」閣議決定
平成29年1月	・日本老年学会、日本老年医学会 高齢者の定義を「75歳以上」に見直す提言
令和元年12月	・財団設立30周年記念式典挙行
令和2年7月	・第五代理事長 大島 伸一 就任 ・名誉理事長 祖父江 逸郎 就任
令和3年4月	・高齢者雇用安定法の改定(70歳までの就業機会の確保)
令和5年6月	・「認知症基本法」の成立(認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(=共生社会)の実現を推進)

評議員名簿

令和7年6月18日現在

(50音順)

秋山 弘子	東京大学名誉教授
大熊 由紀子	国際医療福祉大学大学院教授
伍藤 忠春	社会福祉法人全国心身障害児福祉財団理事長
烏羽 研二	東京都健康長寿医療センター名誉理事長
藤宗 和香	アズビル株式会社社外取締役
本田 麻由美	読売新聞編集委員
柵木 充明	公益社団法人愛知県医師会会長
樂木 宏実	独立行政法人労働者健康安全機構大阪ろうさい病院総長

評議員 計8名

役員名簿

令和7年6月18日現在

(50音順)

会長	非常勤	渡辺 捷昭	公益財団法人長寿科学振興財団会長
理事長	〃	大島 伸一	国立長寿医療研究センター名誉総長
理事	〃	荒井 秀典	国立長寿医療研究センター理事長
〃	〃	井口 昭久	名古屋大学名誉教授
〃	〃	井藤 英喜	東京都健康長寿医療センター名誉理事長
〃	〃	江澤 和彦	公益社団法人日本医師会常任理事
〃	〃	大内 尉義	国家公務員共済組合連合会虎の門病院名誉院長
〃	〃	加賀美 幸子	千葉市男女共同参画センター名誉館長
〃	〃	児玉 善郎	日本福祉大学学事顧問
〃	〃	齋藤 英彦	国立病院機構名古屋医療センター名誉院長
〃	〃	佐藤 眞一	大阪大学名誉教授
〃	〃	清水 肇子	公益財団法人さわやか福祉財団理事長
〃	〃	鈴木 みずえ	浜松医科大学臨床看護学講座特命研究教授
〃	〃	田代 俊孝	仁愛大学学長
〃	〃	辻 哲夫	一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会理事長
〃	〃	濱口 道成	先進的研究開発戦略センター(SCARDA)センター長
〃	〃	松本 一年	愛知県西尾保健所長
〃	〃	柳澤 信夫	一般財団法人全日本労働福祉協会会長

理事 計18名

監事	非常勤	岩田 義浩	サッポロホールディングス株式会社顧問
〃	〃	水野 智之	サカエ税理士法人代表社員税理士

監事 計2名

長寿科学研究者支援事業審査評価委員会 委員名簿

令和7年
4月1日現在

委員長	駒村 康平	慶應義塾大学経済学部教授
副委員長	飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構機構長 未来ビジョン研究センター教授
委員	秋下 雅弘	東京都健康長寿医療センター理事長兼センター長
〃	阿久津 靖子	一般社団法人日本次世代型先進高齢社会研究機構代表理事
〃	鎌田 実	一般財団法人日本自動車研究所代表理事・研究所長 東京大学名誉教授
〃	近藤 克則	京都大学 成長戦略本部特任教授 千葉大学予防医学センター特任教授 一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構研究部長
〃	佐藤 久恵	国際基督教大学評議員
〃	長谷川 友紀	東邦大学医学部教授

委員 計8名

長寿科学関連国際学会派遣事業審査委員会 委員名簿

令和7年
4月1日現在

委員長	荒井 秀典	国立長寿医療研究センター理事長
委員	秋下 雅弘	東京都健康長寿医療センター理事長兼センター長
〃	石神 昭人	東京都健康長寿医療センター研究所副所長
〃	上田 貴之	東京歯科大学 老年歯科補綴学講座教授
〃	亀井 美和子	帝京平成大学薬学部長
〃	斎藤 民	国立長寿医療研究センター 老年学社会科学研究センター部長
〃	真田 弘美	石川県立看護大学学長

計7名

広報委員会 委員名簿

令和7年4月1日現在

委員長	井藤 英喜	東京都健康長寿医療センター名誉理事長
副委員長	鳥羽 研二	東京都健康長寿医療センター名誉理事長
委員	飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構機構長 未来ビジョン研究センター教授
〃	飯野 奈津子	医療福祉ジャーナリスト
〃	櫻井 孝	国立長寿医療研究センター研究所長
〃	佐藤 真一	大阪大学名誉教授
〃	柳澤 信夫	一般財団法人全日本労働福祉協会会長

計7名

※長寿科学関連の専門委員で構成する各委員会を設置し、公益目的事業を推進しています。

ご寄附のお願い

当財団では皆様から頂いたご寄附を基本財産として積み立て、運用することで得られた利息を原資とし、財団ビジョン「長生きを喜べる長寿社会の実現～生きがいのある高齢者を増やす」の実現のため事業活動を行っています。

皆様からの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

なお、ご芳名を当財団ホームページ及びWEB版機関誌Aging & Healthでご紹介させていただいております。

寄附の運用で支えられている事業の実績

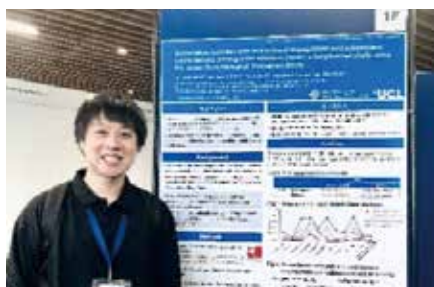
- 長寿科学研究に携わる研究者の育成と長寿科学の振興を図ることを目的に、長寿科学に貢献できるすべての分野の活動を幅広く支援しました。
→ これまでに170件 5億1,863万円を助成しました。
- 長寿科学研究に携わる若手研究者の育成を目的に、海外で開催される関連学会で研究成果を発表するための渡航費を支援しました。
→ これまでに119名総額2,833万円を助成しました。
- 長寿科学研究において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰しました。
→ これまでに67名を表彰しました。
- 健康長寿情報や長寿科学研究成果を分かりやすく情報提供します。
年に4回機関誌を公開(通算112号)
- ウェブサイト「健康長寿ネット」の運営(約1,800の記事を掲載)
- 指定寄附金として目的を達成するため、下記の指定研究事業に活用しました。
J-COSMIC事業(平成15年度～21年度)
アテンプト研究事業(平成21年度～令和2年度)
高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成(令和5年度～7年度)

「高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成」は以下の団体からの支援により実現しています。

with support from **Google.org**



長寿科学に携わる若手研究者の育成と長寿科学の振興を図ることを目的として、優れた研究成果をあげた研究者を表彰します。



長寿科学研究に携わる若手研究者の育成を目的に、国内で優れた研究成果をあげた若手研究者を海外で開催される学会において研究成果を発表するための費用を助成。



財団ビジョン「長生きを喜べる長寿社会の実現～生きがいのある高齢者を増やす～」を実現するため、課題解決となる探索研究・実装研究・社会実装を目的としたプロジェクトを支援します。

ご寄附の方法

次の3つの方法からお選びください

●銀行振込〈寄附金振込先口座〉

金融機関：三菱UFJ銀行(0005) 大府支店(344)

種別：普通預金 口座番号：1762379

口座名義：公益財団法人長寿科学振興財団 基本財産受入口 理事長 大島伸一

●郵便振替用紙(振込手数料不要)

当パンフレットに貼付の「郵便振替用紙」(振込手数料不要)をご利用下さい。

ご不明な点などございましたら下記までご連絡下さい。

《連絡先》総務企画課 TEL:0562-84-5411 FAX:0562-84-5414 E-mail:soumu@tyojyu.or.jp

●つながる募金



SoftBankのスマホから
ご利用料金とまとめて寄付



どなたでも可能
クレジットカードで寄付

 つながる募金

当財団は所得税法(所得税関係)、法人税法(法人税関係)および租税特別措置法(相続税関係)上の「特定公益増進法人」です。当財団への寄附金は、寄附金控除、損金算入等についての税法上の特典が受けられます。個人様・法人様いずれの場合も、優遇措置を受けるためには確定申告が必要となります。確定申告の際は、当財団が発行する領収書の提示が必要となります。

趣深い竹林について情報提供をお願いします！

長寿科学振興財団では、財団のロゴマークの若竹にちなんでパンフレットの表紙に掲載する竹林の情報を集めています。孤高の美しさ、緑の息吹、静寂な風景など、あなたのおススメする竹林についての情報をお寄せください。竹林の名前、所在地、特徴、アクセス方法など、どんな情報でも歓迎です。また、竹林に関連する写真も大歓迎です！情報提供をお待ちしています！



令和7年度財団パンフレット表紙



●相生山緑地

愛知県名古屋市東部に広がる相生山緑地は、約123ヘクタールの広大な森で、標高10~60mの台地と谷筋が織りなす起伏に富んだ地形には、雑木林や竹林が広がり、四季折々の風景が楽しめます。特に北部の「オアシスの森」では、整備された散策路があり、自然を楽しみながらゆっくり歩ける環境が整っています。竹林の静けさと木漏れ日の中での散歩は、心身のリフレッシュに最適です。軽い運動はフレイル予防や認知機能の向上にもつながります。



公益財団法人長寿科学振興財団

The Japan Foundation for Aging and Health

日本の高齢社会における重要な課題に取り組む研究および社会実装プロジェクトを支援するため、助成プログラムを立ち上げました。

with support from

Google.org

所在地



〈アクセス〉

- ・ J R 名古屋駅から J R 東海道線(上り)「大府駅」下車
- ・ J R 大府駅西口から知多バス大府線・大府循環線乗車
- ・ 「あいち健康プラザ」下車

〒470-2101

愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山1-1
あいち健康の森健康科学総合センター 4F
(あいち健康プラザ内)

TEL:0562-84-5411 FAX:0562-84-5414

E-mail:soumu@tyojyu.or.jp



公益財団法人長寿科学振興財団

令和 7 年度版